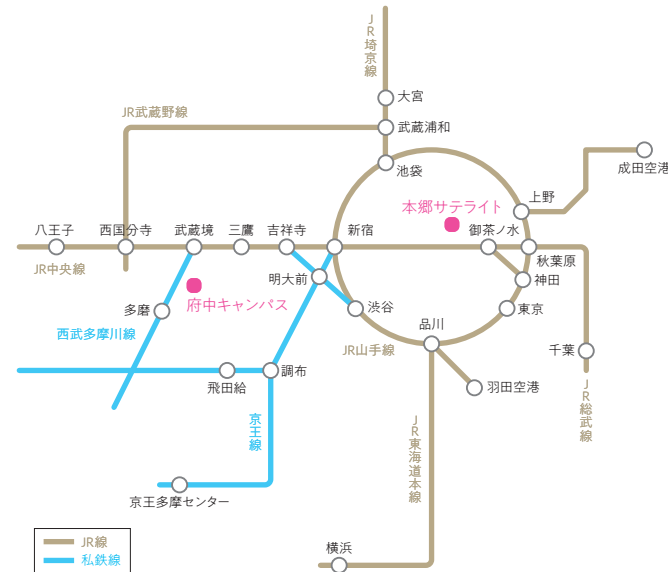




国立大学法人
東京外国語大学
<http://www.tufs.ac.jp>



東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

大学案内
2019—2020

府中キャンパス

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
Tel : 042-330-5111

電車

- JR中央線
「武蔵境」駅のりかえ
西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分
(JR新宿駅から約35分)

- 京王線
「飛田給」駅下車 徒歩20分

電車 + バス

- 京王線
「飛田給」駅下車
北口より「多磨」駅行き京王バスにて約10分
「東京外国語大学前」下車

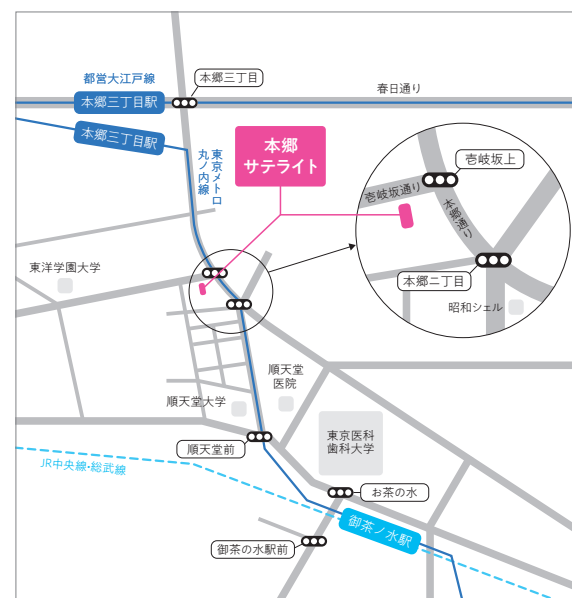


本郷サテライト

〒113-0033 東京都文京区本郷2-14-10
Tel : 03-5805-3254

- 地下鉄丸ノ内線・大江戸線
「本郷三丁目」駅下車 徒歩5分

- JR中央線・総武線
「御茶ノ水」駅下車 徒歩10分



多文化共生に寄与する 東京外国語大学

東京外国語大学は長きにわたり、世界の言語とそれを基底とする文化、世界諸地域や国際的な問題について、研究と教育を行ってきました。

やがて建学150周年を迎えるにあたり、世界諸地域の言語・文化・社会に関する高等教育の中心として、また、学際的研究拠点として、その役割をさらに明確にします。

多言語多文化化する日本と世界で、人々の共生に寄与する人材、そして地球的課題に取り組むことのできる人材の養成を目指します。また、大学として、共生社会の実現に向けた社会貢献事業に取り組みます。

世界諸地域の
多様な
言語・文化・社会

日本社会の
多文化化

TUFS
東京外国語大学

教育

地球的課題に取り組み、
世界諸地域の人々と
協働できる人材を養成します。

研究

日本を含む世界諸地域の
多様な言語・文化・社会の
研究を推進します。

社会貢献

多文化化する日本や社会の
諸問題の解決に向け、
大学として貢献します。

Contents

ミッション・組織図	2
建学150周年の歴史	4
学長挨拶	5
キャンパス	6
早わかり東京外大	8
グローバル交流	10

TUFSの教育 14

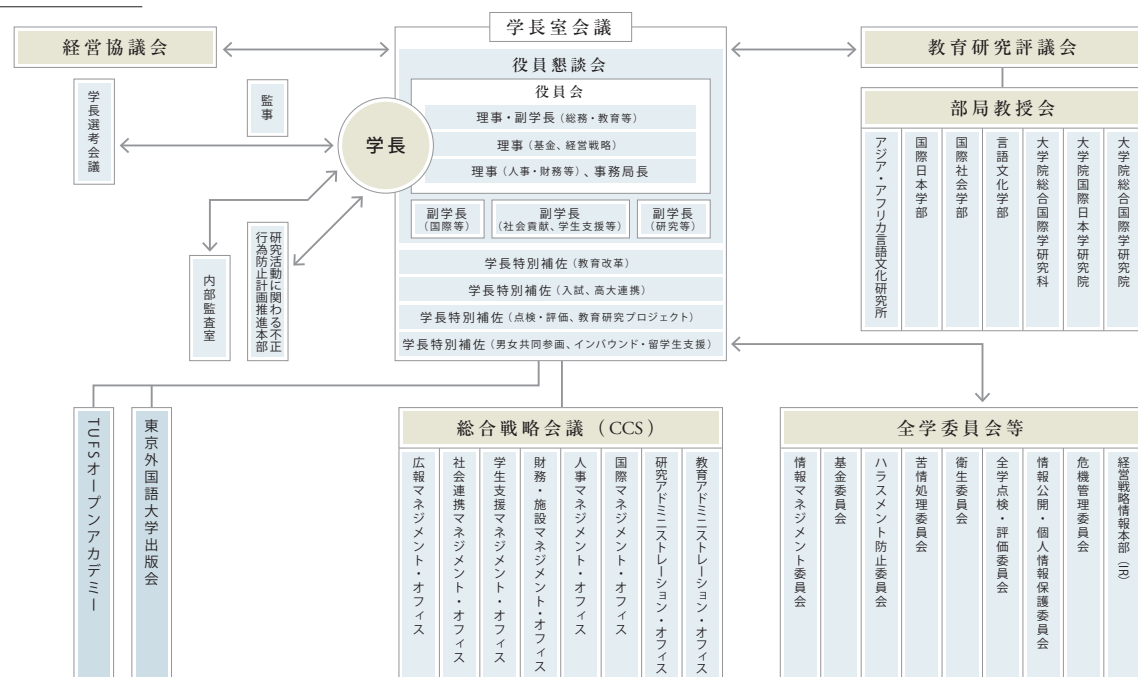
TUFSの研究 22

TUFSの社会貢献 28

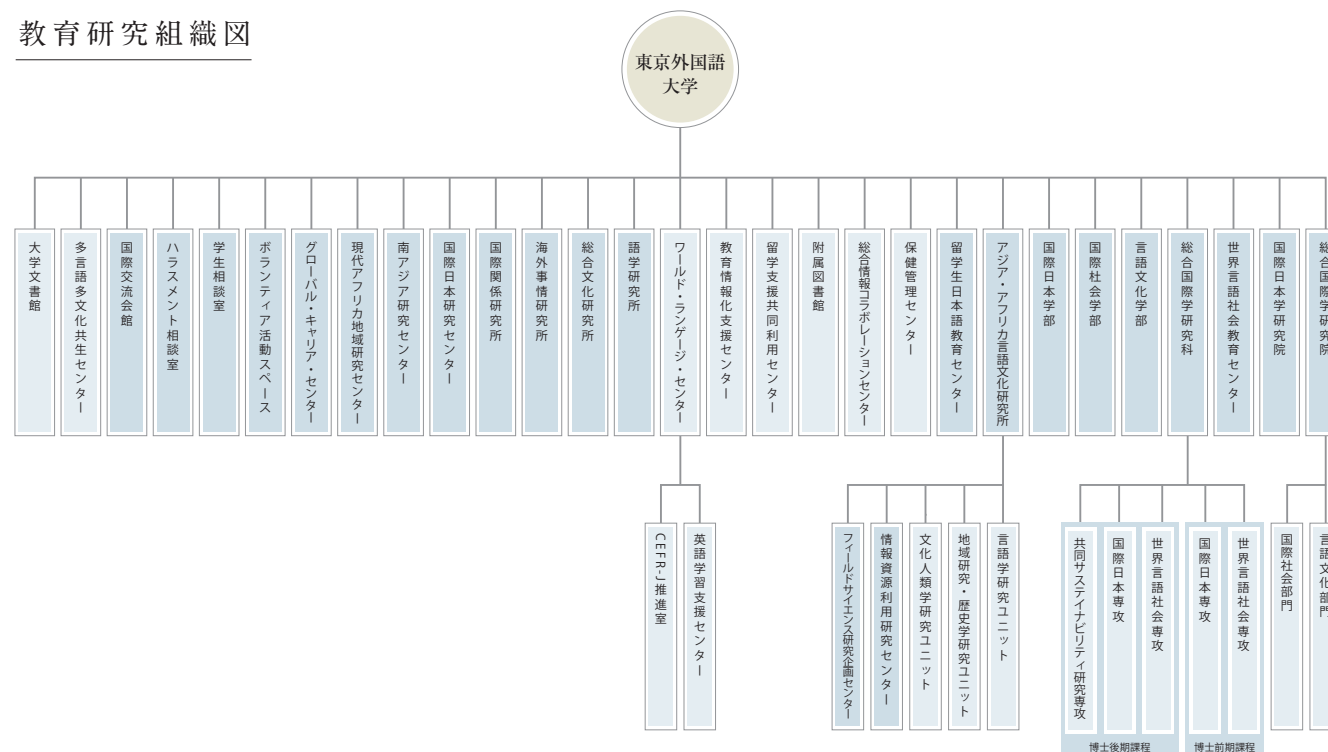
建学150周年基金のご案内 31

組織図

運営組織図



教育研究組織図



150余年の長きにわたる外国学の教育と研究

建学150周年の歴史

本学の歴史はたいへん古く、その起源は江戸幕府により1857（安政4）年に開校された蕃書調所まで遡ることができます。日本における外国研究の歴史は本学の祖となる官営学校によって始まったといっても過言ではありません。1873（明治6）年に官立の東京外国語学校が発足します。その後、高等商業学校附属外国語学校、東京外国語学校、東京外事専門学校、新制東京外国語大学と、統合や改称・改組の歴史を歩んできました。この間、本学は、一貫して世界の言語・文化・社会に関する高度な教育・研究を実践し、国際的に活躍する多くの人材を輩出してきました。2023（令和5）年には建学150周年を迎えます。



1920（大正9）年上演のロシア語劇『ボリス・ゴドノフ』



1915（大正4）年学内競漕大会。掲げているのは1907年に作製された大優勝旗



現在の府中キャンパス



独立当時の正門と校舎
（神田区錦町3丁目14番地）

1857	蕃書調所、開校【 本学の起源 】
1873	東京外国語学校、発足【 建学 】
1885	東京外国語学校と同校所属高等商業学校、及び東京商業学校の三校が合併。翌年、語学部は廃止【 東京外国語学校の消滅 】
1897	高等商業学校に附属外国語学校を附設【 創立 】
1899	高等商業学校附属外国語学校が東京外国語学校と改称専門学校として独立【 独立 】
1944	東京外事専門学校と改称
1949	国立学校設置法の施行により東京外国語大学を設置【 設置 】
2023	建学150周年



校章の由来

炬火は、「光は世を照らす」ことを意味し、Lはラテン語のLinguaの頭文字です。左右の羽翼については、1899（明治32）年の本学独立当初に教授した8語学科を意味しているといわれています。1899（明治32）年、制定されました。

スクールカラー牡丹色の由来

この色の由来は、1920（大正9）年にさかのぼります。当時新たに結成された日本漕艇協会の求めに応じ、加盟各学校は学校色を登録しました。その時、本学が選んだのが牡丹色です。以来、この色は本学のスクールカラーとして親しまれています。

牡丹色

学長挨拶

多様性を力に変え、多文化共生に寄与する 東京外国語大学へ

世界の言語・文化・社会を教育・研究する東京外国語大学は、世界の多様性をその存在の前提としています。世界の多様性の源である言語・文化・社会の諸現象を扱い、その特性や変化、互いの関係、接触や衝突の諸相を解明します。そして、それらの知識を踏まえ、異なる言語・文化・社会の間の仲介者となる人材の養成に力を注いできました。世界の一体化に反比例し、世界の多様性に関する本学の教育・研究の意義はより大きくなっています。なぜなら、一体化の進捗に伴い、多様性はさらに顕著になり、調整や仲介の必要は、ますます大きくなっているからです。

そして、私たちは、調整や仲介をするのみならず、接点に立つ立場を利用し、多様性を力に変えていく存在でありたいと願っています。世界には、多くの「差異」が存在します。言葉の違い、文化の違い、民族の違い、宗教の違い、性差、年齢差、貧富の差など。このような中で、相手に関する知識を備え、差異とされるものの源泉と背景をさぐり、それぞれの立場をおもんじる態度は、差異を乗り越えるために不可欠です。それを基礎とし、相手に対し想像力を働かせるなかから、多様性を力に変えていく道が、必ず開けていくと確信します。

私たちの求める多文化共生とは、そのような意味においての共生です。差異のあるものを、隔離するのでも、同化を強要するのでもなく、差異を包括した、新たな展開を生み出す第三の道の成否が、これからの世界の在り方を決めていきます。その進捗に貢献することが、これからの東京外国語大学の使命です。教育、研究、社会貢献のそれぞれの面で、多様性を力に変え、多文化共生に寄与する活動を本学の中核と位置付け、東京外国語大学の機能の強化に努めていきたいと思っています。



東京外国語大学長
林 佳世子

profile

1958年、山口県生まれ。専門は、西アジア史、オスマン朝史。1981年お茶の水女子大学文教育学部卒業。1984年同大大学院修士課程修了、1988年東京大学大学院博士課程退学。東京大学東洋文化研究所助手を経て、1993年東京外国語大学外国語学部講師。助教授、教授、学長特別補佐、副学長、理事を歴任。2019年4月、学長に就任。

Ka Y o H a y a s h i

中央広場から広がるコミュニケーション

東京外国語大学のキャンパスは、東京都府中市の緑豊かな地域に位置しています。世界中から集った学生や教員・研究者が、このキャンパスを拠点として教育研究活動をおこなっています。そのキャンパスの中央にある円形の中央広場は、キャンパス内の主な建物をつなぎ、活動の中継地点となっています。ここで多文化交流が生まれ、キャンパスに、そして世界へ広がります。



附属図書館

280を超える言語による書籍と資料を有し、蔵書数は約86万冊。各国の新聞・雑誌、AV資料なども所蔵しています。



- 1 アライバルコート
- 2 アゴラ・グローバル
- 3 附属図書館
- 4 本部管理棟
- 5 中央広場・円形回廊
- 6 アジア・アフリカ言語文化研究所
- 7 保健管理センター
- 8 大学会館
- 9 研究講義棟
- 10 留学生日本語教育センター
- 11 屋内運動場・課外活動施設
- 12 テニスコート
- 13 運動場
- 14 国際交流会館



アゴラ・グローバル

「地球の広場」という意味が込められた異文化交流施設。外語祭時には「プロメテウス・ホール」で、学部2年生が専攻する言語で「語劇」を上演します。ネイティブ教員などから発音指導を受け、同級生を相手に演劇的な対話をし稽古を重ねます。



国際交流会館

外国人留学生と日本人学生と一緒に生活します。多言語多文化の中での共同生活を通じて、仲間をつくり、そして互いの文化を尊重しあう経験を積みます。



森林

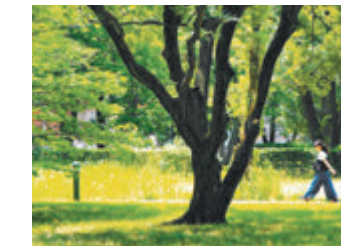
日常的に異文化にふれ多言語が飛び交うグローバル・キャンパスは、まさに世界の縮図のようです。地球的課題に取り組むことができる人材を養成する本学では、世界の陸地面積の3割を占める森林も、キャンパスの一部として備えています。

外語祭料理店

外語祭時、キャンパスの中央にある回廊には、学部1年生が専攻する言語・地域の料理店を開き、その屋台が軒を連ねます。実に多彩な世界の料理店。食も貴重な文化の入り口です。



府中キャンパスの四季



早 わ か り 東 京 外 大

2019年5月1日現在

01 在籍学生数（正規生）

学部	3,880名
言語文化学部	1,870名
国際社会学部	1,926名
国際日本学部	82名
外国語学部（募集停止）	2名
大学院	534名
博士前期	324名
博士後期	210名
在学生数	計4,414名

TUFSに関する10のこと

日本人学生の
75%が
在学中に
留学を経験。

02 留学生受入・留学派遣数

留学生受入数* （世界80カ国・地域から）	827名
正規生（学部187名、大学院245名）	432名
研究生	116名
交換留学生	217名
その他	62名
留学派遣数（2018年度実績）	1,242名
短期海外留学	780名
長期海外留学（2018年度出発）	462名

*学部進学留学生除く

06 外国語による授業科目数

200科目

全体の
15.5%

03 教職員数

外国人教員の割合
17.6%
（全国国立大平均4.4%）

役員等	9名
教員	250名
うち外国人教員	44名
職員	135名
計	計394名

04 海外協定校数

72カ国・地域
215機関

アジア	17カ国・地域	66機関
オセアニア	2カ国・地域	5機関
中東	6カ国・地域	14機関
アフリカ	10カ国・地域	13機関
ヨーロッパ	28カ国・地域	90機関
北米	2カ国・地域	17機関
中南米	7カ国・地域	10機関

05 学べる言語数

計75言語

主専攻語	28言語	英語、ドイツ語、ポーランド語、チェコ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、ウズベク語、モンゴル語、日本語、中国語、朝鮮語、インドネシア語、マレーシア語、フィリピン語、タイ語、ラオス語、ベトナム語、カンボジア語、ビルマ語、ウルドゥー語、ヒンディー語、ベンガル語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語
主専攻語以外	47言語	広東語、上海語、福建語、カザフ語、ウイグル語、オセアニア諸語、スワヒリ語、アイスランド語、アイヌ語、アイルランド語、アムハラ語、イディッシュ語、イロカノ語、ウォライタ語、ウクライナ語、オランダ語、カタルーニャ語、古典ギリシャ語、キルギス語、グルジア語、クルド語、コリマ・ユカギール語、サンスクリット語、ジンボー語、スロヴェニア語、ゾンカ語、タミル語、チベット語、トルクメン語、バーリ語、ハイダ語、バスク語、ハワイ語、ハンガリー語、フィンランド語、ブルガリア語、ヘブライ語、マダガスカル語、マラーティー語、マラヤーラム語、ラテン語、リトアニア語、ルーマニア語、沖縄語、現代ギリシア語、古代スラブ語、日本手話

08 大学ランキング

「THE世界大学ランキング
日本版2019」

国立大の「国際性」 国立大の「教育充実度」

1位 5位

「本当に強い大学2019」
（東洋経済新報社）

総合ランキング

17位 3位
（文系の単科大学としては）

就職に強い大学ランキング
（外国語・国際・教養系学部）

国際社会学部 言語文化学部

2位 14位

07 言語資料（蔵書数）

世界各地域から
280を
超える
言語資料

合計約86万冊

和漢書	約30万冊
洋書等	約47万冊
製本雑誌等	約9万冊

09 科学研究費補助金 新規採択率

全国1位

（2018年度新規課題採択率：52.8%）

文学、言語学及びその関連分野	全国2位
歴史学、考古学、博物館学及びその関連分野	全国9位
地理学、文化人類学、民俗学及びその関連分野	全国4位
政治学及びその関連分野	全国5位

10 女性比率

	女性数	全体数	比率
役員等	2名	9名	22.2%
部長	7名	24名	29.2%
教員	100名	250名	40.0%
職員	49名	135名	36.3%
学部生	2,537名	3,880名	65.4%
大学院生	343名	534名	64.2%

グローバル交流

学びの場、学術交流は、世界に広がります。
72カ国・地域215機関と国際学術交流協定を結んでおり、
いずれも各国のトップ大学です。

交流協定校 (2019年3月現在)

留学 派遣・受入の交流人数 (過去4年、各年5月1日現在)

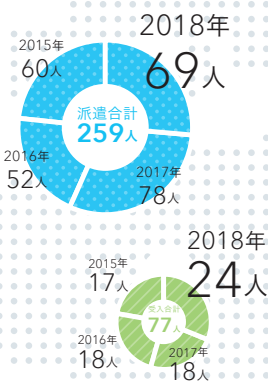
短期／長期海外留学派遣人数
受入人数 (学部進学留学生除く)

ヨーロッパ Europe

アイルランド アイルランド国立大学コーク校	オーストリア - オーストリア科学アカデミー - ウィーン大学	セルビア ベオグラード大学	フィンランド オウル大学	ポルトガル - コインブラ大学 - リスボン大学 - カモイス院 - ポルト大学
イギリス - ロンドン大学 - 東洋・アフリカ研究所 - リーズ大学 - マンチェスター大学 - エセックス大学 - セントラル・ランカシャー大学	スイス - ジュネーブ大学 - チューリヒ大学	チェコ - カレル大学 - パラツキー大学 - マサリク大学	フランス - パリ第三大学 - チベット言語文化研究所 - パリ政治学院 - フランス国立東洋言語文化大学 - パリ第三大学・通訳翻訳高等学院 - ボルドー政治学院 - リール大学 - パリ第七大学 - スタンゲール大学 - エクス・マルセイユ大学 - ボルドー・モンテーニュ大学	ポーランド - 国際文化研究所 - ヤギェロン大学 - シロンスク大学 - ニコワ・コペルニクス大学 - アダム・ミツキェヴィチ大学 - ピャウストック大学
イタリア - ナポリ東洋大学 - ヴェネツィア大学 - トリノ大学 - ローマ大学「ラ・サピエンツァ」 - トリノ大学 - ボローニャ大学 - ペルージャ外国人大学	スペイン - セビーリヤ大学 - ボンベウ・ファブラ大学 - マドリード自治大学 - サラマンカ大学 - ラモン・リウイ - インスティトゥート・セルバンテス - アルカラ大学 - バルセロナ自治大学 - エチバレン・バスク院 - バスク大学 - リエイダ大学 - マラガ大学	ドイツ - ゲッティンゲン大学 - エアランゲン・ニュルンベルグ大学 - ビーレフェルト大学 - ギーセン大学 - マールブルク大学 - ケルン大学アフリカ学研究所 - ハンブルク大学 - アジアアフリカ研究所 - ミュンヘン大学・ドイツ語講座 (SV) - ミュンヘン大学・グミュント教育大学 - ベルリン自由大学 - トリヤ大学	リトアニア ヴィータウタス・マグナス大学	ルーマニア - ルーマニア文化院 - バベシュ・ボイ大学
ウクライナ イヴァン・フランク記念リヴィウ国立大学	スロバキア コメンスキー大学	ハンガリー 中央ヨーロッパ大学歴史学部	ブルガリア ソフィア大学	ベルギー リエージュ大学
オランダ - ライデン大学 - オランダ王立言語・地理・民族学研究所	スロベニア リュブリャナ大学			

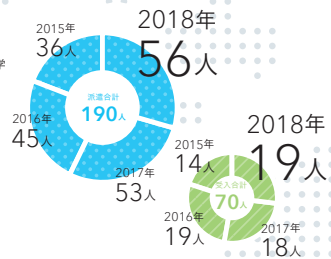
中東 Middle East

イラン - アッラーメ・タバーターバーイ大学 - イラン自由大学シーラーズ分校 - イスファハニ大学	シリア ダマスカス大学	トルコ - アンカラ大学 - ボアジチ大学 - ユヌス・エムレ・イニスティテュート - マルマラ大学 - オカン大学	パレスチナ ビルゼイト大学	ヨルダン アリー・バーバー・インターナショナル・センター (SV)	レバノン - ドイツ東洋学会ベイルート・ドイツ東洋学研究所 - レバノン大学人文科学部第1部 - ベイルート・アメリカン大学
---	--	---	--	--	---



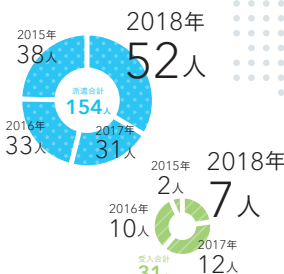
アフリカ Africa

エジプト - カイロ大学 - アイン・シームス大学	南アフリカ プレトリア大学	モザンビーク - エドゥアルド・モンドラーネ大学 - ルリオ大学	モロッコ ムハンマド5世大学	ルワンダ プロテスタント人文・社会科学大学	ジンバブエ ジンバブウェ大学	マリ マリ共和国人文科学研究所
---	--	--	---	--	---	--



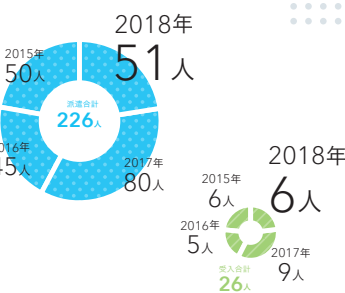
南アジア South Asia

インド - 文部省インド言語中央研究所 - インド統計研究所 - デリー大学 - ジャドプル大学 - ジャワハルラー・ネルー大学 - ザン・ランゲージ・インスティテュート (SV)	パキスタン - アーサード・ジャンムー・カシミール大学 - カイデアザム大学 - パンジャーブ大学 - オリエンタルカレッジ	バングラデシュ ダッカ大学
--	--	--

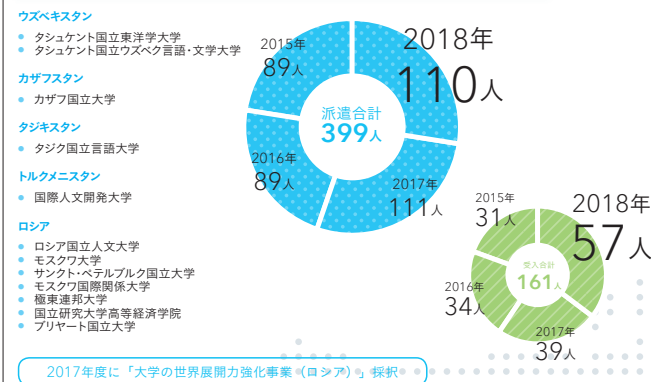


オセアニア Oceania

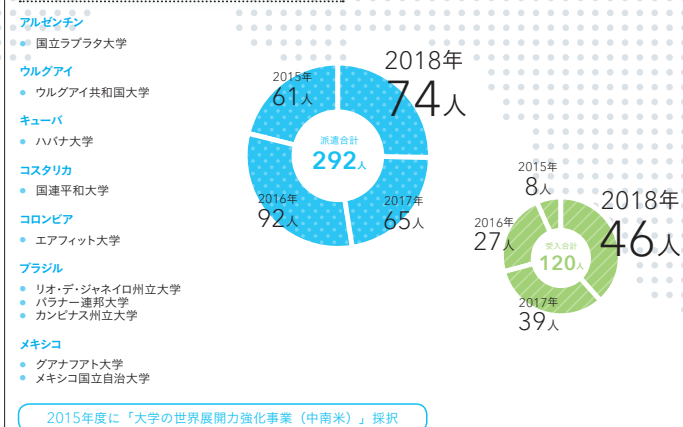
オーストラリア - オーストラリア国立大学 - メルボルン大学 - ディーキン大学	ニュージーランド - オークランド大学 - ヴィクトリア大学ウェリントン
--	--



ロシア Russia 中央アジア Central Asia

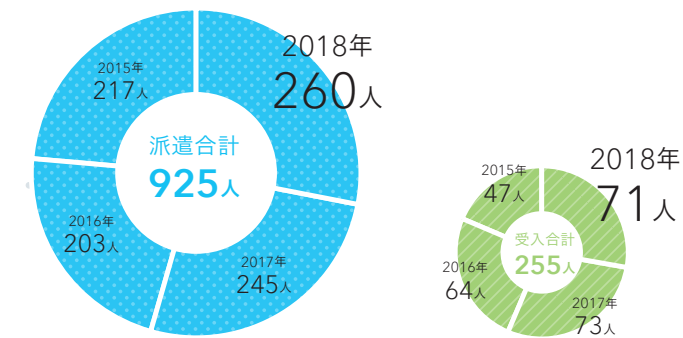


中南米 Latin America



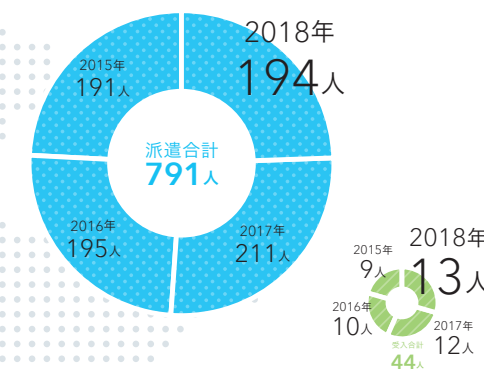
東南アジア Southeast Asia

インドネシア - ガジャマダ大学 - インドネシア科学院 - 社会文化研究センター - インドネシア大学 - アトマ・ジャヤ・インドネシア・カソリック大学	タイ - シーナカリンウィロート大学 - タマサート大学 - チュラロンコーン大学 - チェンマイ大学 - マヒドン大学 - アジア言語文化研究所	ベトナム - ハノイ国家大学 - 人文・社会科学大学 - ホーチミン国家大学 - 人文・社会科学大学 - ハノイ国家大学外国語大学	マレーシア - マレーシア国立言語・図書研究所 - サイ・開発研究所 - マレーシア国立大学	フィリピン - フィリピン国立大学 - デラサール大学 (SV) - アデネオ・デ・マニラ大学	ブルネイ ブルネイ・ダルサラーム大学
カンボジア 王立プンペン大学	シンガポール - シンガポール国立大学 - 人文社会科学部	ミャンマー ヤンゴン大学	ラオス ラオス国立大学		



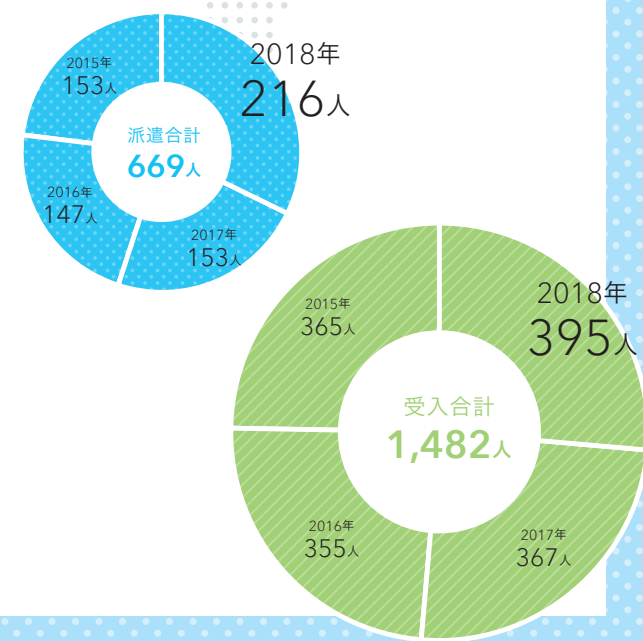
北米 North America

アメリカ - コーネル大学 - カリフォルニア大学サンディエゴ校 - ニューヨーク州立大学オルバーニ校 - コロンビア大学 - サンディエゴ州立大学 - ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校 - ニューヨーク州立大学カニース校 - ハワイ大学マノア校 - テキサス大学オースティン校 - デラウェア大学 - ジョージ・メイソン大学 - カリフォルニア大学リバーサイド校 - カリフォルニア大学ロサンゼルス校 - カリフォルニア州立大学ノースリッジ校 - カリフォルニア大学アーバイン校	カナダ - プリンス・エドワード大学 - レジャヤナ大学
---	--



東アジア East Asia

韓国 - 延世大学 - ソウル大学 - 韓国外国語大学 - 淑明女子大学 - 韓信大学 - 聖公女大学 - サイバー・韓国外国語大学 - 済州大学 - 慶熙大学 - 釜山外国語大学 - 梨花女子大学 - 東国大学	中国 - 上海外国語大学 - 北京語言大学 - 厦門大学 - 内モンゴル大学 - 東北師範大学 - 大連外国語大学 - 北京外国語大学 - 北京大学外国語学院 - 寧波大学 - 中国・ベトナム学研究中心 - 西安外国語大学	(香港) - 香港中文大学 - 香港大学	モンゴル - モンゴル国立大学 - ホブド大学
台湾 - 国立政治大学 - 国立台湾大学 - 淡江大学 - 国立中央大学 - 師範大学 - 開南大学 - 国立清華大学			



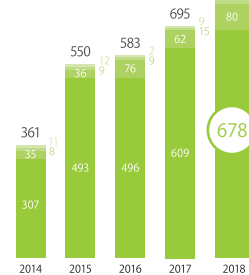
グローバル交流

留学実績 日本人学生の75%が、在学中に留学を経験しています（2019年3月実績）。

海外留学者数（2018年度）

短期海外留学

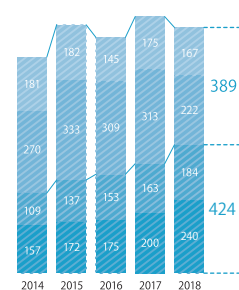
ショートビジットの他、多様なスタディツアーが用意されています。



■ 日本語教育インターンシップ
■ 短期インターンシップ
■ スタディツアー
■ ショートビジット

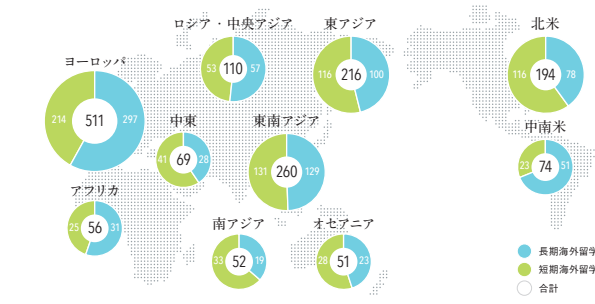
長期海外留学

長期海外留学は、交換留学を中心に増加しています。



■ その他の長期留学（帰国）
■ その他の長期留学（出発）
■ 交換留学（帰国）
■ 交換留学（出発）

地域・タイプ別留学者数



● 長期海外留学
● 短期海外留学
○ 合計

交換留学

本校協定校との学生交換の枠組みで、本校から派遣される形の留学です。2019年3月現在で、約70カ国・地域の165の教育機関と学生交換に関する協定が結ばれています。交換留学は、休学することなく派遣されることから、交換留学期間を含めて4年で卒業することができます。

ショートビジット

夏学期・冬学期に、海外の協定校が提供する2～6週間程度の短期留学プログラムに参加する留学です。各国言語コース、英語コース、英語で学ぶ総合型コースがあり、約170プログラムが用意されています（2018年度実績）。留学前、留学後教育をあわせて、単位が認定されます。

スタディツアー

協定校との共同教育や海外での学修体験の獲得を目的に、本校や他の公的機関が実施するプログラムに参加するものです。「ムンバイ（インド）でスラムとソーシャルワークを学ぶスタディツアー」「国連の活動とキャリア：国連見学のスタディツアー」など世界各地で発生している多様な事情に触れる機会を設けています。

pick up! 留学体験

長期交換留学

泉 洸希さん（写真中央）

言語文化学部
インドネシア語／東南アジア地域
グローバルコミュニケーションコース
インドネシア大学（インドネシア）



2017年6月の夜。ビジネスマンで溢れていたはずのジャカルタの街は、街中から祈りの声が響きイスラム服をまとう人で埋め尽くされます。断食明けの礼拝の時間です。約300の民族から構成されるインドネシアは、時と場所が違っただけで街の表情は全く変わります。

私が留学を決めたのはこんな多様性を肌で感じるためです。平日は大学で語学を磨き、休みになると現地の友人を辿ってさまざまな場所へ足を運びました。教室を飛び出して、現地の人と話し、共に時間を過ごすことが何より地域の理解につながったと思います。

長期交換留学

太田 陽さん（写真左から2番目）

国際社会学部
北アメリカ地域／英語
国際関係コース
プリティッシュ・コロムビア大学（UBC）（カナダ）



UBCで、私は歴史ある学生新聞部に所属し、授業の傍ら学生ジャーナリストとして活動しました。皆の個性を大事にするバンクーバーの特性が光る活動空間で、とても本格的な記者活動に携われました。

取材等を通じてバンクーバー社会に対する見方が大きく変わりました。自分を敢えて他の社会の一員に置き換え、彼らと同じ立場からその社会を見た時、外から見た時よりも見えるものはずっと多く、その社会に対する考え方もより深くなります。これこそ、留学の醍醐味だと感じています。

自分とは異なる人々と等身大になって物事を考える。これは留学へ行っただけで養えた感覚であり、将来どこへ行っても大切にしていきたいです。

IJ (International & Japanese Students) 共学

外国人留学生と日本人学生がともに学べる環境づくりに取り組んでいます。

留学生とともに学ぶ！

本学では、国際的な教養を英語で"身につけることを目的とした「英語による科目」を数多く用意しています。その一部は、留学生用のプログラムで開講されている授業と共通で開講されているため、世界各地からの留学生と一緒に学ぶことができます。日本の伝統文化・宗教・政治などの授業では、留学生とともに授業を受けることで、英語で日本を語る力を実践的に身につけることができます。

留学生をサポートする！

留学生の日本語学習のために用意されている「基礎日本語（全学日本語プログラム）」では、留学生と日本人学生との交流型授業を随時企画し、日本人学生の参加を募集します。交流型授業への参加は、留学生の日本語学習のサポートになるだけでなく、国際的な視座から多くの学びを得る貴重な機会となります。

学生主体の交流サークル

TUFS多文化交流コミュニティ

毎週金曜日のお昼休みに行われている多言語交流イベント「たふこみゅFRIDAY」をはじめ、留学生の歓迎会や送別会、ハロウィンやクリスマスパーティなど、1年を通してさまざまな交流イベントを実施しています。参加留学生の出身も多国籍でさまざまな世界を感じることができます。

Language Exchangeコミュニティ

「タンデム学習」とは学びたい言語・話せる言語が合致する学生同士がそれぞれの言語を教え合うことです。毎週月曜日と水曜日のお昼休みにLanguage Exchangeコミュニティとして「タンデム学習」の活動が行われています。留学生と日本人学生が交流しながら、学んでいる言語をさらに伸ばしたり、新しい言語を習得します。



ショートビジット

松山 芳瑛さん

言語文化学部
チェコ語／中央ヨーロッパ地域
言語・情報コース
カレル大学（チェコ）
スラヴ研究サマースクール



チェコ語の授業の他に、チェコ語による講義があり、多様な話題に触れることができました。中でも興味深かったのが、チェコ語における外来語や、言語接触に関する内容です。充実した授業やさまざまなスラヴ人との交流により、言語学・スラヴ語学により強い興味を持ちました。クラスメイトともお互いの母語やスラヴ諸語などについて語ることができ、大変刺激になりました。

また、自ら進んで学ぶ姿勢が身に付いたと感じます。この時に学んだことを心に刻み、今年から始まる長期留学では、積極的に言語を深めたいと思います。

スタディツアー

徳江 菜洋さん

国際社会学部
東南アジア地域／フィリピン語
現代世界論コース
タシュケント国立東洋学大学他（ウズベキスタン・スタディツアー）



現地のことば、文化、独特の風土に触れる中で、人々と同じ目線で物事について考えることの重要性を改めて感じました。現地の学生と行うグループ活動では、市場で聞き込み調査を行ったり学生同士で議論したり、さまざまな面で協力しながらとても充実した学習をすることができ、お互いにとっての「当たり前」がぶつかり合う場面をとても興味深く感じました。

留学中は、多くの歴史的建造物を訪問したり、現地学生の家族の夕食に招いてもらったりしました。人との出会いやその人々の温かさを感じることができたのも、留学ならではの思い出です。

TUFSの教育

学部

高度な言語運用能力と地球社会化時代を生きるために必要な基礎的教養及び専門知識を身につけ、国内外において言語間・文化間の懸け橋となり、新たな価値観の創成に寄与する国際教養人及び、世界諸地域の社会・政治・歴史等の知識と幅広い専門性を活かして多分野で活躍できる国際職業人を養成しています。

「世界教養プログラム」と呼ばれる3学部共通のカリキュラムで、入学時に選択した言語とその地域に関わる基礎的な内容や教養科目を学びます。

言語文化学部

- ☐ 地域コース
- ☐ 超域コース

世界のさまざまな地域の言語や文化に精通し、言語や文化の壁を越えたコミュニケーション能力とコーディネーション能力を備え、国内外において言語間・文化間の懸け橋となり、新たな価値観の創成に寄与する人材を養成します。

国際社会学部

- ☐ 地域社会研究コース
- ☐ 現代世界論コース
- ☐ 国際関係コース

世界のさまざまな地域の歴史的経緯や複雑な現状を理解し、分析するリサーチ能力と、グローバルな視点から問題を解決する実践的な能力を備え、諸地域の社会・政治・経済・歴史等の知識と専門性を活かして、国内外で活躍できる人材を養成します。

国際日本学部

日本そのものをフィールドとして分野を超えた多角的な視点で日本を捉え直します。国際的な視野から日本を総合的に学び、世界に向けて日本を発信する力や、多文化化する日本の問題解決に資する知識や協働力を備えた人材を養成します。

世界教養プログラム

グローバル時代を生きるための
言語運用能力と
教養を身につける
3学部共通のプログラム

本学では、いずれの学部に入学者も、まずは「世界教養プログラム」を履修して、専攻する言語とグローバル化時代に一市民・一職業人として生きる上で必要となる基礎的な教養を身につけていきます。

世界教養プログラムには、「基礎科目」、「教養科目」、「言語科目」、「地域科目」の4つの科目区分があります。このうち、「教養科目」は、現代社会で必要とされる基礎的な知識と技能、そして幅広い教養を身につけるための授業科目で、「現代教養科目」、「自然科学系科目」、「教養日本力科目」、「キャリア・協働科目」、「臨地学修科目」などから構成されます。

専門的に学べる言語、学べる地域

28言語

英語／ドイツ語／ポーランド語／チェコ語／フランス語／イタリア語／スペイン語／ポルトガル語／ロシア語／ロシア語およびウズベク語／モンゴル語／日本語／中国語／朝鮮語／インドネシア語／マレーシア語／フィリピン語／タイ語／ラオス語／ベトナム語／カンボジア語／ビルマ語／ウルドゥー語／ヒンディー語／ベンガル語／アラビア語／ペルシア語／トルコ語

14地域

北西ヨーロッパ地域／北アメリカ地域／中央ヨーロッパ地域／西南ヨーロッパ地域／イベリア地域／ラテンアメリカ地域／ロシア地域／中央アジア地域／東アジア地域／東南アジア地域／南アジア地域／中東地域／アフリカ地域／オセアニア地域

大学院

総合国際学研究科

高度な言語運用能力や学際的応用力等を備え、国際社会に寄与する実践的知識と技法を習得し、世界に活躍することのできる創造的かつ先端的な人材を養成しています。



博士前期課程

世界言語社会専攻

- ☐ 言語文化コース
- ☐ 国際社会コース
- ☐ Peace and Conflict Studiesコース

世界諸地域の言語・文化・社会や国際社会を、複合的・総合的に捉える視点から研究し、地球社会化時代にふさわしい多言語グローバル人材を養成します。

国際日本専攻

- ☐ 国際日本コース
- ☐ 日本語教育リカレントコース

世界の諸言語の中での日本語・日本語教育、世界の中の日本文化と日本社会を比較の視座をもって研究し、日本についての客観的な視座をもつ人材を養成します。

博士後期課程

世界言語社会専攻

- ☐ 言語文化研究プログラム
- ☐ 国際社会研究プログラム
- ☐ アジア・アフリカフィールド研究プログラム
- ☐ Peace and Conflict Studiesプログラム

世界諸地域の言語・文化・社会を複合的・総合的に捉える視点から教育・研究を行います。専門的知識や研究能力をもちつつ、一方で総合的で柔軟な対応力をもって多面的な課題に取り組むことができる人材を養成します。

国際日本専攻

- ☐ 国際日本研究プログラム

国際的な視座から「日本」を研究するため、総合的な日本研究の視野を涵養しつつ、専門分野に応じた体系的な研究指導を行い、「世界の中の日本」を客観的に理解したうえで、世界に向け日本を発信することができる人材を養成します。

共同サステナビリティ研究専攻

東京農工大学、電気通信大学、そして本学の三大学が共同で設置する複合新領域の研究専攻です。自身の専門性に軸足を置き、その専門的な観点からSDGsの課題を捉えつつ、他分野の研究成果を取り入れることによってイノベーションを生み出すことができる学際的、越境的な実務人材を養成します。

問題設定・解決能力をもつ人材育成を目指した、各学部・大学院研究専攻の特徴ある教育実践

日本のグローバル化を先導する大学として、キャンパスのグローバル化や、海外の教育機関と連携した世界の言語・文化・社会の教育研究を通じて、地球的課題に取り組み、世界諸地域の人々と協働できる多言語グローバル人材を養成します。

pick up! 授業

世界教養プログラム（全学部共通）

社会協働

「インバウンド推進・地域活性化のためのスタディツアー」

吉田 ゆり子 教授、篠原 琢 教授、小田原 琳 准教授、上原 こずえ 講師、古川 高子 助教



少子高齢化、都市への集中、地方の過疎化など、日本社会の現状と問題点を、留学生と日本人学生が山形県の一市四町に滞在して具体的に学び、観光資源の発掘・商品開発、地域の産業の活性化のための海外輸出の推進など、地元自治体・観光協会、地域住民との交流・意見交換をとおして考え、地域社会の持続可能性を探ります。

国際社会学部

平和・紛争論

「国際協力と紛争解決論」

篠田 英朗 教授



人間が生きていく限り、日常生活において紛争からは逃れられず、必要なのは紛争がない世界を夢見る事ではなく、紛争に対処する技能を高め、準備を整えておくことだ、という認識から出発します。国際的紛争の傾向や対応する政策、現代世界の地域紛争の事例や日本の紛争の歴史の捉え方まで扱います。国際紛争を分析することによって、自分自身の生き方の改善を図っていくという視点を養います。

文理協働型教育

環境・エネルギー、生産・消費、労働、飢餓、貧困などの国際社会が抱えるさまざまな課題の解決に貢献できる人材を養成するため、2019年4月に博士後期課程「共同サステイナビリティ研究専攻」を新設しました。この専攻は、本学・東京農工大学・電気通信大学の三大学協働による文理協働型の専攻です。三大学がそれぞれの教育研究資源の強みを結集し、文理協働の博士人材を育成していきます。



言語文化学部

多言語・多文化社会論概論

「コミュニティ通訳概論」

内藤 稔 准教授



多言語・多文化化が進む日本社会においてニーズが高まるコミュニティ通訳について理解を深めます。コミュニティ通訳は外国人が地域での日々の暮らしの中で直面するさまざまな課題の解決にあたり、支援する役割を担っています。通訳の歴史や訓練法などについて学びながら、コミュニティ通訳の専門領域である相談、司法、医療、行政、教育などの現場における事例をもとに、その社会的な役割や求められる専門性について考察を深めていきます。

国際日本学部

多文化コラボレーション

「外大のある地域の魅力を発信する——ミニ番組の制作を発表」

大津 友美 准教授、幸松 英恵 講師



日本人学生と留学生が協働で地域の魅力を発見し、発信する授業です。母語を含めバックグラウンドが異なる多文化チームが自分たちで設定したテーマに沿って、英語と日本語を交えてグループワークを行います。現地調査や専門家へインタビューした内容をふまえてミニ番組を制作します。多言語多文化共生力や行動力・発信力を身につけることを目指します。

特色ある教育の取り組み

1 学びの成果を可視化 TUFS Record（たふれこ）



TUFS Record
（たふれこ）
とは？

これまで成績証明書と学位証明書以外に、卒業時における学生の達成度を示す手段がなく、本学が養成した「多言語グローバル人材」の内容を社会に向けて十分に示せていないという課題を有してきました。そこで、既存の証明書には包括されえない言語力、専門力、行動・発信力（留学歴やインターンシップ活動の履歴など）を客観的な指標で示した「TUFSディプロマ・サプリメント」を配布しています。このディプロマ・サプリメントを発行するため、多様な学修活動を記録するシステムとして「TUFS Record（たふれこ）」を導入しています。



学修活動履歴書
（サンプル）
TUFS Record の内容をまとめました。就職活動などで活用します。

何が
できるの？

年度ごとにどのように過ごすのか、計画を立てることができます。具体的な目標をもって意識的に大学生活を送ることで、自分自身の日々の成長過程に課題を見つけるとともに振り返ることができます。派遣留学や言語学習の達成度、重点的に履修した科目の一覧が表示されるほか、自由応募によるインターンシップやボランティア活動の情報などを記録することができます。



ディプロマ・サプリメント
（サンプル）
卒業時に配布します。大学で身につけたことを、大学が証明します。

積み上げた
成果が形に

記録された「TUFS Record」は、学修成果として「学修活動履歴書」に反映され、大学生活の「見える化」を社会や企業に向けて行うことができます。卒業時には公的に保証できる情報に基づいて「ディプロマ・サプリメント」を発行します。このように、日々の記録と振り返りを行うことにより、学修成果を可視化することができます。

2 実践的な英語力を問う 英語スピーキングテストの導入

2017年度には、英国の公的な国際文化交流機関「ブリティッシュ・カウンシル」と共同で、大学入試に利用可能な、英語スピーキングテスト「BCT-S (British Council-TUFS Speaking test for Japanese Universities)」を開発しました。本学では、このBCT-Sテストを、2019年4月に新設した国際日本学部の一般入試（前期日程試験）で利用し、さらに今後、2021年度からは全学部の入試で利用する予定です。本テストは、他大学でも広く利用可能な仕様になっています。



人と知の循環を支えるネットワーク中核大学

世界から日本へ、日本から世界へ

本学は、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業の「グローバル牽引型大学」として、世界トップレベルの大学との交流・連携を実現し、世界で活躍できるグローバル人材を社会に送り出す機能と体制を備えています。2023年度までに、人と知の循環を支えるネットワーク中核拠点としての機能を強化し、グローバル社会を牽引する人材の養成を行う教育・研究のグローバル化を進めています。

Vision 本学の将来像



Plan + Action 構想実現に向けての取り組み

1 多言語グローバル人材養成プラン

- 留学200%、受入留学生2倍 >>> p19
- 語学を中心とした教育指標の可視化 >>> p19
- 自主的計画的な学びのTUFSクォーター制 >>> p19
- Joint Education Program
海外協定校との多様な共同教育プログラム
- 多言語カリキュラム
英語を中心とする外国語による開講科目

2 発信力強化プラン

- 世界各地にGlobal Japan Office設置 >>> p19
- 全学教養日本カプログラム
日本の文化・社会、日本語教育法に関する教育プログラム

3 大学グローバル化支援プログラム

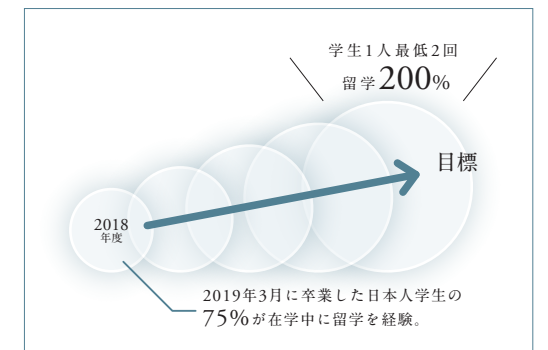
- TUFS留学支援共同利用センターの活用
留学前・留学後教育の提供、受入留学生に対するコミュニケーションサポート
- Global Japan Officeの共同利用
海外協定校に派遣された日本人学生、海外協定校から日本へ留学する外国人学生へのサポート

主な取り組み

1 留学200%、受入留学生の増加

多言語運用能力、複合的かつ俯瞰的な視点の獲得のため、目的、機関、派遣先に多様性をもたせた留学プログラムを開設し、本学学生の在学中の留学機会を増やすことで、学生1人が最低2回の留学を行う「留学200%」を目標としています。また、海外協定校の拡大、Joint Education Program*による短期留学生の受入れ（ショートステイプログラム）などにより、本学で学ぶ留学生の数を増やしています。

* Joint Education Program……海外協定校と多様な分野にわたるプログラムを開発しています。教員の交換を含む共同教育プログラムを実施しています。



2 Global Japan Officeの世界展開

日本への留学希望者の掘り起こしが必要な海外重点地域に、日本関連情報の提供や、現地での教育を行う「Global Japan Office (GJO)」を新たに開設し、日本語・日本文化の普及と発信、現地での入学選抜試験などを実施し、優秀な留学生の獲得に努めています。また、同オフィスは、日本語教育におけるポスドクのキャリア形成や教育実習などの場として活用されるほか、海外に留学する日本人学生や海外に展開する日本企業への情報提供などの機能も担っています。



ウクライナGJOにおける日本留学説明会（2018年3月）

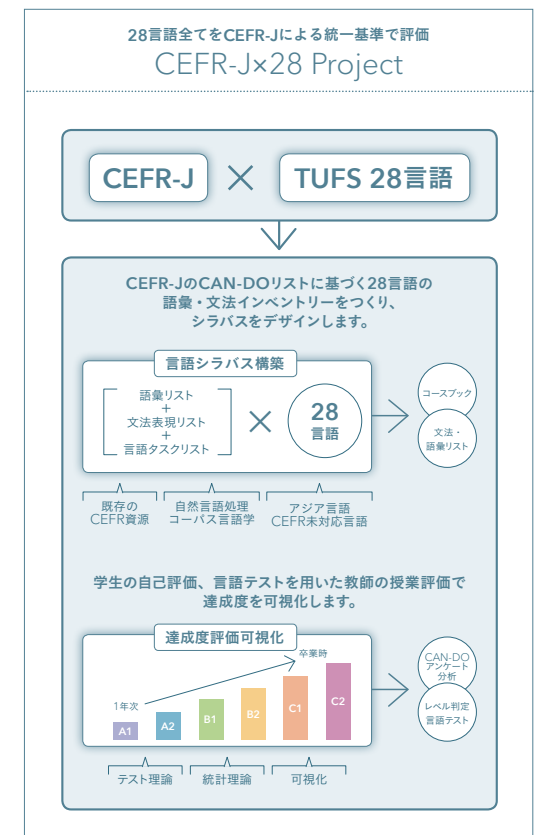
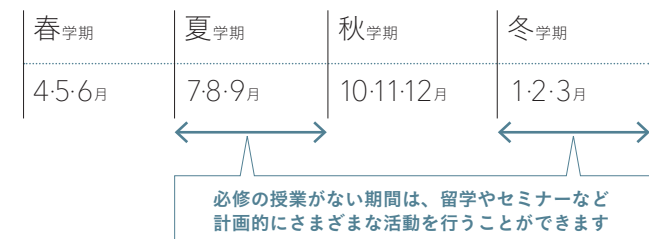
3 語学を中心とした教育指標の可視化

本学が養成する人材像に基づいた言語能力やスキルの達成度を可視化し、学生独自の言語力の向上に資することを目指しています。特に、語学についてはヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR*）に準拠して本学の学生が学ぶ28言語についてのCEFR-J基準を開発し、各国言語の達成指標と達成度測定の方法の確立を進めています。

* CEFR……ヨーロッパで使われている外国語の学習、教授、評価のための言語参照枠のこと。A1～C2の全6レベルに分かれています。

4 TUFS クォーター制

学年暦を柔軟にし、より効果的な学修を実現するため、本学独自の「TUFSクォーター制」（春学期：4～6月、夏学期：7～9月、秋学期：10～12月、冬学期：1～3月）を導入しています。夏学期と冬学期に、短期海外留学プログラムや本学での集中セミナー等を実施、さらに学生のインターンシップや国内外でのボランティア活動などを可能にしています。



1 英語学習支援

本学では、入学時に選択した言語・地域を中心に学修を行います。どの言語を選択しても、世界共通のコミュニケーション言語である英語の能力を高められるプログラムが用意されています。「読む」「聴く」「書く」「話す」の技能を大学レベルまで高めるための授業だけでなく、英語を深く読み解き、英語を深く知るための専門的な授業もあります。また、英語で学ぶ授業や英語学習支援センター（ELC）、留学生との共学など、英語力を伸ばすためのさまざまな仕組みが用意されています。

2 大学をクロスして学べる制度

本学では、海外協定校のみならず、国内でも多くの大学と連携協定を結び、教育研究交流を図っています。単位互換に関する協定を結んでいる大学も多くあり、本学に籍を置いたまま、他大学において指定された授業科目を履修することができます。各大学は、それぞれが特色ある歴史と伝統と教育プログラムをもつ個性的な大学です。

単位互換協定締結校（2019年5月現在）

東京医科歯科大学、東京工業大学、一橋大学、東京農工大学、電気通信大学、東京学芸大学、国際基督教大学、国立音楽大学、東京経済大学、津田塾大学、武蔵野美術大学、東京女子大学、お茶の水女子大学、首都大学東京、清泉女子大学、創価大学、東洋大学（順不同）

3 ボランティア活動の支援

本学では、ボランティア活動を学生の重要な学びの機会、教育活動の一環と捉え、ボランティア活動スペース（VOLAS）を設置し、学生のボランティア活動を支援しています。主体性の涵養、市民社会の一員としての自覚、多様な視点からの実践的な知、世界の諸問題を自分の社会の問題として考える力を育てています。

4 外語祭を通じた学び

毎年11月下旬に開催される「外語祭」の最大の特徴は「多言語・多文化」です。その一番の目玉である「語劇」は、2年生が中心となり、各自が専攻する言語で演劇を上演します。実際に体を動かして演劇を創り上げることを通じて、それぞれの国の生きた言語や地域の文化の特徴を深く理解することになります。



心身ともに健全な学生生活の実現、支援体制

心身両面の健康を良好な状態に置くことは、充実した学生生活を支える最も重要な基盤を築くことにつながります。本学では、保健管理センターや学生相談窓口を設け、学生や教職員の健康状態の保持・増進を支援するとともに、さまざまな疑問や悩みの相談を受け付けています。本学に在籍する外国人留学生の多様な文化的・保健的背景に合わせた健康支援にも心がけています。



本学では学生一人ひとりが自立した社会人・職業人（プロ）として、生きがいと働きがいに満ちた人生を送れるよう自らの人生を設計し、主体的な進路選択、職業選択を行うことを支援しています。

1 キャリア形成支援プログラム

低学年のうちから、自分の生き方の方向性、自分自身を生かせる働き方のイメージをつかむため、キャリアをデザインする多彩な授業科目を用意しています。

pick up! 授業

働き方イメージ・職業について考える 「キャリアデザイン論」	インターンシップで就業体験 「国際的な業務を行う機関でのインターンシップ」	経営者・起業家から学ぶ 「グローバルビジネスを学ぶ」
現代社会における労働や生活などに関する基礎知識を学び、「人材育成」に着目した企業研究を行います。キャリアに関する理論、ワークシートの作成などを通して、自己の過去キャリアを省察し、未来キャリアをみつめ、現在すべきことを検討します。	国際的な業務を行う機関において就業体験をします。大学で学んでいることが社会でどのように役立つのか、社会はどのような能力をもつ人材を求めているのかを知ることで、大学での学びと社会とをつなぎ、社会性を養います。	一流企業の経営者や著名な起業家によるリレー講義。ビジネスの世界の現実、経済の仕組み、企業活動の実態、企業経営や起業の方法、経営者の役割とリーダーシップ、ビジネスエリートに必要な資質と心構えなどを学びます。

2 将来につながる大学院キャリア・プログラム

プログラム修了書

大学院博士前期課程では、修了後のキャリア形成につながる複数のプログラムを用意しています。一定の単位を満たした場合には、キャリア・プログラムごとに「プログラム修了書」が授与されます。

修了書が授与されるプログラム

- ・日本語教育実践プログラム
- ・多文化コーディネーター養成プログラム
- ・CEFRに準拠した新しい外国語教育プログラム
- ・世界史教育プログラム
- ・国際行政入門プログラム

専門領域単位修得証明制度

博士前期課程の在学中に特定の領域に関して身につけた専門的な知識・技能を修了時に証明する仕組み「専門領域単位修得証明制度」を設けています。キャリア・プログラムが幅広い知識・技能の学修を目的としているのに対して、本制度ではより専門的な知識・技能の学修を前提としています。

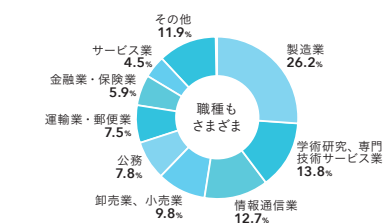
- 1 英語教育学：専門領域「英語教育学」単位修得証明書
(Specialization Certificate in Teaching English as a Foreign Language)
- 2 日英通訳翻訳実践：専門領域「日英通訳翻訳実践」単位修得証明書
(Specialization Certificate in Japanese-English Interpreting and Translation)
- 3 日本語教育学：専門領域「日本語教育学」単位修得証明書
(Specialization Certificate in Teaching Japanese to Speakers of Other Languages)

3 グローバル・キャリア・センターの支援

就職情報、進路データといった総合案内のほか、在学生・企業の方へ向けたさまざまな情報を発信しています。在学生には、専任のキャリア・アドバイザーによる個別面談を実施するなど、学生一人ひとりが納得のいく進路決定ができるようサポートしています。

就職先業種別グラフ

（言語文化学部・国際社会学部 2019年3月卒業生）



主な就職先（過去5年）

外務省、防衛省、東京都庁、（独）日本貿易振興機構（JETRO）、日本放送協会（NHK）、（株）朝日新聞社、（株）日本経済新聞社、（社）共同通信社、Google、楽天（株）、三菱商事（株）、住友商事（株）、丸紅（株）、伊藤忠商事（株）、全日本空輸（株）、日本航空（株）、日本通運（株）、トヨタ自動車（株）、スズキ（株）、パナソニック（株）、三菱電機（株）、ダイキン工業（株）、富士フイルム（株）、（株）三井住友銀行、（株）三菱UFJ銀行、（株）みずほフィナンシャルグループ、大和証券（株）、アクセンチュア（株） など



1 | 研究支援

研究費獲得への支援強化、科研採択率

本学では、教員個々あるいは研究プロジェクトによる活発な研究活動を推進するため、研究アドミニストレーション・オフィスを中心に、研究費獲得への支援体制を強化しています。科学研究費補助金の採択率は、52.8%に達し、全国1位に位置しています。中区分別採択件数順位でも、「文学、言語学及びその関連分野」で全国2位、「歴史学、考古学、博物館学及びその関連分野」で全国9位、「地理学、文化人類学、民俗学及びその関連分野」で全国4位、「政治学及びその関連分野」で全国5位とそれぞれ上位にランクインしています。

女性研究者の研究支援 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ

2016年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に、東京農工大学を代表機関として、国際農林水産産業研究センター、首都圏産業活性化協会とともに、連携機関として採択され、以来、女性研究者サポートシステムの共同運営をしています。ライフイベントを支援するため、具体的には、研究支援員の配置などを実施するほか、研究力向上のための各種セミナーなどを開催しています。

2 | 国際研究コンソーシアム

アジア・アフリカ研究教育コンソーシアム

アジア・アフリカ地域を対象とする研究で世界のトップレベルにある高等教育機関が、アジア・アフリカ地域を対象とした研究・教育活動について連携を強めるため、2007年3月に設立されました。アジア・アフリカ研究において長い伝統と高いレベルを誇ってきた大学が、相互の結びつきをより強固にし、国境を越えた協力体制を築くことにより、世界のアジア・アフリカ研究に新たな広がりをもたせていくことを目指しています。

メンバー機関

フランス国立東洋言語文化大学 (INALCO) [フランス] / ライデン大学 [オランダ] / 上海外国語大学 (SISU) [中国] / 韓国外国語大学 (HUFS) [韓国] / ロンドン大学東洋・アフリカ研究院 (SOAS) [英国] / コロンビア大学 [米国] / 東京外国語大学 [日本]

アジア・アフリカ全体の言語や文化を対象とする超域的な国際的研究拠点

国内外から毎年400名前後の研究者が、共同研究員として本研究所に所属しています。

アジア・アフリカ言語文化研究所 (通称：AA研)

Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa

アジア・アフリカの諸地域を主な研究対象とし、言語学・人類学・歴史学・地域研究の各分野において、次の3つの使命のもとに活動を展開しています。

- 1 臨地研究（フィールドサイエンス）に基づく共同研究の遂行
- 2 研究資源の収集・分析・編纂および研究成果の発信
- 3 共同研究や研修・セミナー等を通じた次世代研究者の養成

本研究所は、共同利用・共同研究拠点(拠点名：「アジア・アフリカの言語文化に関する国際的研究拠点」)に認定されています。個々の地域の言語・文化に関する地道な基礎研究をいっそう発展させる一方で、狭い地域の枠組みを超えた超域的共同研究や、研究資源の収集・分析・編纂、研究成果の発信、次世代研究者養成の拠点として活動を行っています。

pick up! 国際的共同研究プロジェクト

基幹研究

「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築 (LingDy3)」

研究代表者：塩原 朝子 准教授

グローバル化により、少数言語・方言の衰退が世界各地で進んでいます。本プロジェクトでは言語・文化の多様性の保持を目指し、現地のコミュニティや研究機関との連携により、少数言語・方言の話者たちと共同で言語記録活動を行うとともに、将来的には話者コミュニティが自分たちでそのような活動を継続できるよう、人材育成・技術開発・資源利用のためのネットワーク構築等を行っています。



共同利用・共同研究課題

「スワヒリ語諸変種にみられる多様性とダイナミズムへのアプローチ」

研究代表者：品川 大輔 准教授

東アフリカの広域共通語であるスワヒリ語のさまざまな言語バリエーションについて、言語学を中心とした学際的なアプローチから迫り、その地理的・歴史的多様性創出のダイナミズムを明らかにすることを目的としています。日本におけるスワヒリ語研究の蓄積に、現代アフリカ言語学の世界的潮流を融合し、スワヒリ語動態研究のための新たな研究枠組みを構築します。



共同利用・共同研究課題

「南アジアにおけるムスリム社会の民族誌的研究」

研究代表者：外川 昌彦 教授

南アジアの多様な民族誌研究を、歴史的にさかのぼって検証する研究プロジェクトです。第一期は、特にベンガル地方のムスリム社会の民族誌的研究に焦点を置いて、学際的な観点から今日のバングラデシュ研究にも示唆を与える、その意義を検証します。民族誌的資料に基づいて多様な地域社会の変動を明らかにする手法を探り、英領期にさかのぼる民族誌的研究の営みが、南アジア世界の人々の認識に与えた影響や、その今日的な意味を検証します。



共同利用・共同研究課題

「オスマン文書史料の基礎的研究」

研究代表者：高松 洋一 教授

オスマン朝は近世から近代にかけて、アジア・アフリカ・ヨーロッパにまたがる広大な版図を支配し、膨大な量の文書史料を今日まで伝えました。これら文書史料はオスマン朝の支配領域にとどまらず、周辺地域の歴史を研究する上でも必須の史料です。その特質を明らかにしつつ、若手研究者の育成に資する基盤を形成することを目的とした研究プロジェクトです。



特定地域・領域の研究拠点

アジア・アフリカ言語文化研究所のような超域的な研究拠点のほか、
本学が実施する長年の研究蓄積を踏まえ、
いくつかの特定地域あるいは特定分野の研究拠点を設置しています。

南アジア研究センター

FINDAS

現代南アジアの構造変動に関する理解を、重層化・多元化・輻輳化する社会運動の歴史・政治・社会学的分析と文学分析、およびジェンダー視角を軸として研究を進めています。

pick up! 研究プロジェクト

「南アジア多言語社会における複合文化のなかの文学伝承」

(科学研究費補助金:基盤研究B)

研究代表者:
水野 善文 教授 (大学院総合国際学研究院)

南アジア地域の時間的にも空間的にも多様な言語状況は、様々な文化事象と絡みあいながら現代に至っています。リングア・フランカの役割を担ったサンスクリット語、ペルシア語、英語がある一方、どの時代にも社会的基層に口語空間があり、さらに中層には文語としてのブラークリット諸語やドラヴィダ系諸語があつて、重層構造をなしています。それぞれが産み出した豊富で多様な文学・文芸の中にも、言語の差異を超えて通底する題材・様式・情緒の一貫性を観察できるものも少なくありません。文学・文芸の歴史的かつ言語横断的ダイナミックな展開を捉えることで、南アジア精神史の地下水脈を掘り起こそうとしています。



「南アジア地域における英語変種「ヒングリッシュ」の解明」

(科学研究費補助金:挑戦的研究(萌芽))

研究代表者:
萬宮 健策 准教授 (大学院総合国際学研究院)

本研究で扱うヒングリッシュとは、ヒンディー語やウルドゥー語を母語とするか、第一言語として用いる人々が用いる英語の一変種を指します。インドやパキスタンでは、広く英語が通用し、また彼らが移民として第三国に移住した場合も英語を用いる機会が多いのですが、具体的にどのような英語を用いているのか、その音韻面、統語面での研究が進んでいるとは言い難い状況です。本研究は、インド、パキスタンに居住する人々やそこから第三国に移住した人々のうち、ヒンディー語やウルドゥー語を主に用いている人々の英語使用に焦点を当て、言語学的特徴の一端を浮かび上げさせることを目的としています。



現代アフリカ地域研究センター

African Studies Center

現代アフリカに関わる研究や教育に加え、アフリカ研究者の招へいや国内外のアフリカ研究機関との連携を通じて現代アフリカ研究のネットワークを構築し、そのハブとして機能することを目指しています。

pick up! 研究プロジェクト

「アフリカ農村部における資源管理と政治権力」

(科学研究費補助金:基盤研究B)

研究代表者:
武内 進一 教授 (現代アフリカ地域研究センター)

アフリカ農村部における持続可能な開発に資する資源管理政策を、開発の政治的側面に注目して探究することを目的とした研究です。農村の資源管理には、国家、伝統的権威、ドナー、多国籍企業などさまざまな権力主体が関与します。本研究では、その関係を資源化過程と政策分析という2つの軸で分析します。研究対象は、土地を中心に農産物や野生動物なども含め、それらが資源化の過程で政治権力とどのような関係を切り結んできたのか、資源の管理政策にいかなる政治権力構造が反映されているのかを解明します。プレトリア大学(南アフリカ)、プロテスタント人文・社会科学大学(ルワンダ)、ガーナ大学など、アフリカ諸国の研究者と共同研究を進めています。



国際日本研究センター

International Center for Japanese Studies

日本語・日本語教育、日本文化・社会に関する研究分野について、個別的、総合的かつ複合的視点から調査研究し、その成果を国内外に発信しています。

pick up! 研究プロジェクト

「東京外国語大学夏季セミナー・サマースクール」

本センターでは、日本語・日本研究に携わる海外の研究者と大学院生を招いた夏季セミナー・サマースクールを開催しています。東アジア・東南アジアの大学が中心ですが、2018年度は東欧・ロシアから、2019年度はアルゼンチン・ブラジルからも招へいしています。それによって国際的な日本研究のネットワークをつくることを目的としています。



国際日本研究センター編

『日本をたどりなおす29の方法——国際日本研究入門』

(東京外国語大学出版会、2016年)

国際日本研究センター編『日本をたどりなおす29の方法——国際日本研究入門』は、言語学・文学・歴史学・経済学などの人文諸科学の分野について、東京外国語大学の教員が中心になってテキスト本文を書きおろして出版された日本語教育の教材です。日本語教育の専門家たちによるタスクも設定されています。海外の非日本語母語話者を対象とした教材としても好評を得ています。



語学研究所

Institute of Language Research

日本をはじめ世界諸地域の言語・言語教育・言語科学一般についての先端的な研究・調査を行っています。

pick up! 研究プロジェクト

「アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究」

(科学研究費補助金:基盤研究B)

研究代表者:
富盛 伸夫 教授 (名誉教授)

EU統合の象徴の一つであり言語教育改革の基盤をなす「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」(CEFR)は、2001年に実施され、その後世界的に拡大しつつあります。日本語を含め非EU諸語においても、CEFRの適用可能性が検証されています。本研究では次の3点を目的に研究をしています。(1) CEFRの東南アジア諸語への適用に際して必要となる言語類型論的、社会・文化的特質を考慮した新たな言語能力記述方法の提案、(2) 複層的な言語使用地域で言語学習者の複言語使用状況を配慮した言語コミュニケーション能力の新たな評価法構築、(3) 現代社会のニーズ、特に中等教育や生涯教育との接続も視野に入れ、日本におけるCEFRの受容の模態の検証と発信。EUで現在進行中のCEFR改訂の動向をふまえて、国内外の研究者とも連携して研究を進めています。



海外事情研究所

Institute for Global Area Studies

世界のさまざまな言語を駆使して専門領域の政治・経済・文化の研究調査を行い、学際的共同研究へと発展させます。

pick up! 研究プロジェクト

「批判的地域主義に向けた地域研究のダイアレクティック」

(科学研究費補助金:基盤研究A)

研究代表者:
小川 英文 教授 (大学院総合国際学研究院)

本学に所属する地域研究者が、グローバリゼーションの進展とともに諸地域で常態化している社会的コンフリクトに焦点を定めつつ研究を刷新し、批判的地域主義的な立ち位置からの学問的交流・対話を通じて、旧来の学問的理解や既存の研究枠組みでは把握が困難になっている現況の各地域の諸事象の特性、内的構造、ダイナミズムを総合的に解析しています。



「記憶論的転回以後の集合的記憶論の学際的再検討」

(科学研究費補助金:基盤研究A)

研究代表者:
岩崎 稔 教授 (大学院総合国際学研究院)

いわゆる記憶論的転回以後、歴史叙述や歴史認識に関する論争の中で、歴史像の二分化や二極化として現われている諸問題に取り組んでいます。とくに、新自由主義状況の深化に対して、これに反発するナショナリズム・排外主義と集合的記憶のダイナミズムとの関係について考察しています。海外の研究機関と積極的に連携し、共同で国際ワークショップやシンポジウムを開催しています。



総合文化研究所

Institute of Transcultural Studies

世界各地の文学・芸術・文化の個別研究と、それらを総合的・複合的に捉える領域横断的研究を行っています。従来にない科学的・批評的視点から新しい「世界概念」を構築することを目指しています。

pick up! 研究プロジェクト

プロジェクト「文学の移動/移動の文学」 「ロシア・ウクライナ・ベラルーシの交錯

——東スラヴ文化圏の領域横断的研究」

(科学研究費補助金:基盤研究B)

研究代表者:
沼野 恭子 教授 (大学院総合文化研究所)

「東スラヴ文化圏」において交錯するロシア・ウクライナ・ベラルーシ、ユダヤの文化がどのような構造を持ち、互いにどのように影響し合っているかを、9名のメンバーで共同研究し、レクチャーやシンポジウムでその成果を発表しています。この地域の複層的・多言語的な実相を、文学と歴史学を接続させる新しい方法で模索しています。



プロジェクト「翻訳を考える」 総合文化研究所主催 翻訳シンポジウム

柴田元幸(アメリカ文学)、野崎敏(フランス文学)、松永美穂(ドイツ文学)、和田忠彦(イタリア文学)という欧米文学の名翻訳家を招き、本学の沼野恭子(ロシア文学)、山口裕之(ドイツ文学)が加わって、翻訳の理論と実践、文芸翻訳の受容史、翻訳の魅力などを語り合い、日本の翻訳文化について発信しています。



国際関係研究所

Institute of International Relations

現代の国際社会の出来事を、法律・政治・社会学・教育学などの社会科学的分野から考察分析することを研究の中心に捉えています。

pick up! 研究プロジェクト

「東アラブ地域の非公的政治主体による国家機能の補完・篡奪に関する研究」

(科学研究費補助金:基盤研究A)

研究代表者:
青山 弘之 教授 (大学院総合国際学研究院)

中東、とりわけ東アラブ地域は、「国際社会最大の脅威」と目されてきたイスラーム国が衰退し、「ポスト・イスラーム国段階」とも言い得る新たな局面を迎えました。このことは、イスラーム国の温床となってきた「弱い国家」や権威主義的支配が同地域から解消したことを意味せず、各国における国家再建や復興の前途は依然として多難です。しかしその一方で、国家の法的・制度的枠組みの外に身を置き、紛争や混乱のなかでその弱体化を誘引してきた非公的政治主体のなかに、国家に挑戦するのではなく、その機能を補完しようとするものも現れています。本研究は、ポスト・イスラーム国段階の東アラブ地域における非公的政治主体の営為に焦点をあて、いかなる政治的、社会的な条件のもとで、国家再建や復興において積極的、あるいは否定的な役割を担おうとするのかを解明することを目的としています。研究進捗は、ウェブサイト (<http://cmeps-j.net/>) で随時公開中です。

外に身を置き、紛争や混乱のなかでその弱体化を誘引してきた非公的政治主体のなかに、国家に挑戦するのではなく、その機能を補完しようとするものも現れています。本研究は、ポスト・イスラーム国段階の東アラブ地域における非公的政治主体の営為に焦点をあて、いかなる政治的、社会的な条件のもとで、国家再建や復興において積極的、あるいは否定的な役割を担おうとするのかを解明することを目的としています。研究進捗は、ウェブサイト (<http://cmeps-j.net/>) で随時公開中です。



TUFSの社会貢献

多文化共生に資するサポート事業、情報発信

多言語多文化共生センターを中心に、地域や民間企業などと多面的に協働し、多文化共生社会の実現に取り組みます。また大学が中心となって市民社会の文化的活性化を図ります。

1 | TUFS Cinema

本学では、世界の諸言語による映画等の上映会・トークセッションを行う「TUFS Cinema」を年10回ほど開催しています。世界には、さまざまな価値観や言語文化的背景をもつ民族・宗教・社会が存在し、多種多様な「暮らし」が繰り広げられています。こうした世界の諸地域の諸相を映像とトークセッションを通して見つめ、理解を深めていく機会を提供する企画です。字幕翻訳から本学で手がける作品もあります。



2 | 「日本語で読む世界のメディア」事業

アラビア語、ペルシア語、トルコ語で報じられた中東の新聞記事、ビルマ語、ベトナム語、インドネシア語による東南アジアの新聞記事、ベンガル語やウルドゥー語による南アジアの新聞記事を本学学生・大学院生が翻訳し、インターネットで発信しています。世界の人々の生の声を、日本の社会に届ける活動です。



3 | 言語文化サポーターの活用

本学では「言語文化サポーター」制度を設けています。言語文化サポーターは、一定の言語能力がある本学卒業生等で組織し、登録者に地域での活動経験の場を提供するとともに、大学の社会貢献の一環として、多文化共生に資することを目指します。言語文化サポーター向けの研修として、通訳技法のほか、ボランティアをする際の基礎知識や異文化コミュニケーション、教育や福祉などの専門分野について学ぶ講座を開催しています。



言語文化サポーター登録言語（登録者数順）

英語／中国語／スペイン語／フランス語／ポルトガル語／ペルシア語／朝鮮語／タイ語／トルコ語／インドネシア語／ロシア語／マレー語／ドイツ語／ベトナム語／台湾語／モンゴル語／ダリー語／イタリア語／タガログ語／ヒンディー語／ビルマ語／ウズベク語／ウイグル語／アゼルバイジャン語／ウルドゥー語／スロベニア語／カンボジア語

4 | 履修証明プログラムによる多文化共生専門人材の育成

本学は、多文化共生社会に寄与する大学として、広く社会に開かれた多文化共生専門人材の育成にあたっています。新しい社会人講座として2019年4月から、文部科学省の「履修証明制度*」を利用した司法の専門通訳講座を開講しています。

*履修証明制度……大学等がより積極的な社会貢献を促進するため、学生を対象とする学位プログラムの他に、社会人等の学生以外の者を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム（履修証明プログラム）を開設し、学校教育法学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、その修了者に対して、法に基づく履修証明書を交付するものです。

青山学院大学との連携による専門通訳講座

法廷、捜査、弁護活動などさまざまな司法の現場で、異なる言語と文化のあいだに立ち、コミュニケーションの円滑化にあたるスペシャリストを養成します。法廷のみでなく、捜査や弁護士との相談など、多様な場面での活躍が期待されます。



5 | 外国につながる子どもたちの教育支援

2016年の文部科学省の調査によれば、公立学校に在籍している外国人児童生徒80,119人のうち日本語指導を必要としている子どもは34,335人と4割を超えています。しかし実際には日本語指導を必要としている子どもたちはこの数字をはるかに上回ると言われています。こうした子どもたちの学習の助けになるよう、やさしい日本語や母語での説明、イラストを豊富に活用した教材を開発し、無償で提供しています。この教材は、2006年～2008年に実施した三井物産との共同事業「在日ブラジル人児童のための教材開発」によりポルトガル語版を作成し、それをもとにその後、本学がフィリピン（タガログ）語、スペイン語、ベトナム語、タイ語に翻訳し多言語化したものです。



6 | 外国人児童生徒の日本語能力測定ツール「DLA（Dialogic Language Assessment）」普及事業

本学は、2010年度から2012年度までの3年間、文部科学省の「学校教育において利用可能な日本語能力の測定方法の開発」事業を受託し、外国人児童生徒の日本語能力測定ツール「DLA」を開発してきました。文化的、言語的に多様な背景をもつ年少者の言語能力を、マンツーマンによる対話を通して測る支援付き評価ツールです。日常会話ではできるが、教科学習に困難を感じている児童生徒を対象にしています。DLA実践者育成のための研修も実施しています。



TUFSの社会貢献

TUFSオープンアカデミー

本学では、開かれた学術的な生涯学習などの場として、「TUFSオープンアカデミー」を開設し、アカデミー講座（公開講座）と一般聴講生制度を開設しています。

1 | アカデミー講座 42言語の社会人向けエクステンション講座

一般の方を対象に開講するエクステンション講座を多数用意し、グローバル時代に必要な知と教養の獲得をサポートしています。本学の特色を活かした多言語の語学講座や世界を知る教養講座を開講しています。府中キャンパス、本郷サテライトのほか、青山学院大学との連携により、青山学院大学の渋谷キャンパスにおいても開講しています。年間に延べ3,500名を超える方が受講しています。

2018～2019年度の開講言語（計42言語）

アムハラ語／アラビア語／イタリア語／イディッシュ語／ウクライナ語／ウィグル語／ウルドゥー語／エスペラント／オランダ語／広東語／カンボジア語／キルギス語／クルド語／スロヴェニア語／スウェーデン語／スラヴ語／スペイン語／スワヒリ語／タイ語／チベット語／中国語／朝鮮語／ドイツ語／ネパール語／ハンガリー語／バスク語／ヒンディー語／東アルメニア語／フィンランド語／福建語／フランス語／ブルガリア語／ベトナム語／ベンガル語／ポーランド語／ポルトガル語／マルタ語／マレー語／モンゴル語／リトアニア語／ルーマニア語／ロシア語

pick up! 特別講座

にほんご指導者養成プログラム

国内外における多様な日本語教育と学習ニーズの多目的化（ビジネス、就労、観光等）、また、学習者の多文化化（アジアをはじめとした出身国の多様化）、年齢層の広がり（外国人定住者）を背景に、実社会経験やコミュニケーション力のある社会人等に対して、体系的で実践的な日本語の指導を行うことができる、にほんご指導者育成を目指したプログラムを開講しています。

複数年にわたる系統だった教育枠組みを提供し、日本語教育の基礎知識、概論知識、そして技能実習を含む専門教育を行っています。プログラムの修了者に対して、にほんご指導者の履修証明を発行しています。



2 | 一般聴講生制度 キャンパスライフを経験

TUFSオープンアカデミーでは、本学で正規学生に開講されている授業科目の一部を、聴講できる制度を設けています。学生と一緒に授業を受講することで、キャンパスライフを経験できるのが本制度の特徴です。年間に延べ500名を超える方が一般聴講生制度を利用して正規授業を履修しています（単位は付与されません）。



多言語多文化共生センター >>> p28

本学では、社会連携事業を効果的、効率的に実施するため、多言語多文化共生センターを設置しています。多言語多文化社会の抱える問題解決に寄与することを目標とし、異なる言語、習慣、文化をもつ人々が安心して暮らすことのできる多言語多文化共生社会の実現に向けて積極的に活動しています。



建学150周年基金のご案内



東京外国語大学は、1873年の建学以来、一貫して世界の言語・文化・社会に関する高度な教育を実践し、国際的に活躍する多くの人材を輩出してきました。現在は、言語文化学部・国際社会学部・国際日本学部の3つの学部において、世界と日本の新しい課題に適應する人材の養成に注力しています。その結果、学生の力を伸ばす大学として採用企業から厚い信頼を勝ち得ています。また、研究においても高い水準にあり、科学研究費の大学別採択率では、常に全国で1位、2位を争っています。

このような東京外国語大学の果たすべき役割は、現在、さらに重要なものとなっています。世界でも日本でも、異なる文化的背景を持つ人々の共生が不可避となっているからです。世界の言語・文化・社会に関する本学の教育・研究は、多文化共生のための基盤となるものです。

この役割の実現のため、本学は建学150周年基金の活動に力を入れています。本学の教育・研究の更なる発展に期待をいただき、皆様からの温かいご支援・ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

東京外国語大学長
林 佳世子

寄附の使途・支援事業

I 修学支援事業基金

経済的理由により 修学が困難な学生支援

- 海外留学の支援
- 留学生の受入支援
- 給付型奨学金等

II グローバル・キャンパス支援基金

多言語グローバル人材 教育活動支援

- ダイバーシティ推進
- キャリア教育
- 課外活動支援

国際的な研究活動支援

- 若手研究者等の海外研究活動
- 優れた外国人研究者の招聘
- 研究成果の出版活動等助成

社会貢献活動支援

- 多文化共生のための活動支援
- 世界諸地域に関する情報発信
- 国際的ボランティア活動支援

東京外国語大学へのご寄附は、税法上の優遇措置（寄附金控除）を受けることができます。

支援の一例

多文化共生 学生自主企画への 支援スタート!



本学では、2019年度より、学生の自主的かつ創造的な多文化共生活動を支援するため、「TUFS多文化共生学生自主企画制度」を設けました。地域・国際貢献活動、交流活動、社会改善活動などの学生による多文化共生推進活動を助成対象としています。

2019年度は、海外の機関・団体等と連携して行う「国際連携」企画1件、国内の機関・団体と連携して行う「地域連携」企画2件、計3件の企画を募集し、第1次書類審査・第2次公開プレゼン審査を通過した3団体への助成を決定しました。

ご寄附のお申し込み方法

1.国内在住の皆さま

次のいずれかでご寄附の払い込みが可能です。

- 銀行・ゆうちょ銀行からのお振り込み
- クレジットカードによるご入金
- コンビニエンスストアでの決済
- 現金によるご入金

2.海外在住の皆さま

時差や為替手数料に煩わされない、東京外国語大学建学150周年基金ホームページからのクレジットカードによるご寄附が便利です。

◎遺贈（遺言、相続財産、香典）によるご寄附も承っております。ご寄附に対しては相続税法上の優遇措置が受けられます。大学ではご相談いただいた方に提携銀行のご紹介をいたします



<http://tufts-fund.jp/>

詳しくはWebサイトをご覧ください、
ご不明な点がございましたら右記までお問い合わせください。

お問い合わせ先
東京外国語大学
総務企画課 基金担当 9:00-17:00（土日祝日除く）

Email: tufts-fund@tufts.ac.jp
TEL: 042-330-5126 / FAX: 042-330-5140